

広告代理店勤務を経て、現在はノンフィクション作家として活躍中の小松成美さんに、仕事と女性の活躍についてのメッセージを頂きました。

Narumi Komatsu



ノンフィクション作家

## 小松 成美

広告代理店勤務を経て、ルポルタージュを中心に執筆活動中。スポーツ選手、歌舞伎役者等のスポーツ・芸能における第一線で活躍する人物のルポルタージュを得意とし、代表作に、サッカー日本代表の中田英寿を追った『中田英寿 鼓動』や『中田語録』など。

## スタートする勇気と 継続する胆力、 そして挑戦する気持ちが大切。

### ■仕事とは生きるための希望なのだと思ふ。

50歳になった今、「あなたの生きがいは何ですか？」と問われれば、間違いなく「働くことです」と答える。働くことは生きることと等しい。大好きな音楽を聴くことも、映画や絵画やスポーツを観ることも、食事、旅も、私にとって、すべては「原稿を書く」という仕事の源だ。仕事があれば生活の意欲を失い、周りにある光景に煌めきを感じることはなくなるだろう。日々、健康で働けることに、そして、生涯を通し取り組みたいと思える作家という仕事に出会えたことに、私は感謝している。

ノンフィクション作家という仕事には、休日もなければ、オンとオフもない。どんな瞬間も学習の機会であり、取材の現場では一瞬たりとも気を抜くことが許されない。

主題となる人の来し方に向き合い、答えの一言一言に耳を傾ける。そうしてインプットした情報を活字にして綴るのだが、この執筆という作業は、何年を経て

も慣れることがない。どの語彙を選び取り、どういった文章にすれば、取材によって得た感激を伝えられるのか、そこにある真実を伝えられるのか。渾身でそう考え続けなければならない。書くという作業は、孤独でなおかつ苦しい。日常の中で原稿を書くこと以上に困難なこととはないとさえ思えるほどだ。だが、その苦しさは、一編の作品が完成したときに、この上ない幸福に変わる。

仕事をする者なら、誰もが経験しているだろう。目指すものを手に入れるための、また目標を達成するために、いくつもの障害を乗り越えなければならないことを。複雑な人間関係や個人の思考の違いなど、丁寧に向き合い、進むべき道を選ばねばならない。けれど、それらを乗り越えてひとつのゴールにたどり着けば、すべての苦労は報われる。むしろ、歩んだ道程が苦しければ苦しいほど、喜びは大きく、達成感と充足感に浸ることができる。仕事は、生活に必要な収入を得るための

ものであるが、その一方で生きるための希望なのだ、私は思う。

### ■自らがやるべきことに向かって、毅然と前へ進まなくてはならない。

1924年、エベレストに散ったイギリスの登山家、ジョージ・マロリーが、生前「なぜ、あなたはエベレストを目指すのか」とニューヨークタイムズ紙の記者に問われ、「そこに山があるから (Because it is there.)」と答えたというが、若きクライマーの一途な気持ちに私も共感する。それはまさに仕事を遂行する者の思いだ。自らがやるべきことが目の前にあれば、理屈など必要なく、毅然と前へ進まねばならない。

私自身、取材を始め、執筆を開始すれば、言い訳など通用しない。本を完成させるためだけに疾走する以外ない。やがて本が完成すれば、その度に特別な感慨を抱き、また次のテーマに向け走り始めることになる。目前にある頂きは高く、ようやくその頂きにたどり着いたとしても、

さらに高く聳える頂きが見えてくる。登山(仕事)の苦しみと登頂(目標の達成)の幸福。このサイクルを過ごしながら、私は日々を過ごしている。

そうして一年を過ごす、時刻はめまぐるしく過ぎていく。気がつけば、人生の終末を迎える日がくるのだろう。しかし、こうして日々を駆け抜ける疾走感は、何物にも代えがたい爽快感と対にある。作家という仕事こそ、弛まぬ好奇心をもたらし、私の心をどんときも闊達にする。

### ■「一番好きなことを仕事にしたい」という気持ちは揺るがなかった。

現在は、働くことこそ生きがいだと言える私だが、十代や二十代の頃は、そうした感情とは懸け離れた生活を送っていた。自分には何ができるのか、どんなチャレンジができるのか、そう考えることで精一杯で、実際には自己の可能性に正面から向き合うことができなかった。

高校を卒業する頃になれば、社会人となって何がしたいのか、どんな仕事に就きたいのか、心が決まるものだとばかり思っていた。が、それは違っていた。高校時代に将来の目標を見つけれず、安直な考えで臨んだ受験では失敗した。そこそこ勉強ができると自負していた自分が受験に失敗すると、想像もしなかった挫折感が心を覆った。受かった大学に行くことも浪人することも拒否すると、挫折から逃げないように専門学校へ行った。当時、興味があったアドバタイジング(広告)を学びながら、心やすい友達と、ドライブやテニスやウィンドサーフィンをして、愉快地時間を過ごしていた。

やがて、20歳で広告代理店に就職すると、私はただ若さを謳歌した。世はバブル経済前夜。私もまたデザイナーズブランドを華やかに着飾って、友人達と外食や旅行に時間を費やした。1986年4月に施行された「男女雇用機会均等法」以前にOLになった私を取り巻く環境は、「結婚=女子のゴール」というものだった。「寿退社」という言葉が当たり前の頃で、仕事に対する思いは今は違っていた。

同期の男性社員のように将来に向けて仕事をしたい、という思いと、受験から逃げた自分にできることは何もない、という思いが交錯した。さらに、人並みに結婚しなければというプレッシャーもあった。

少しでも経験を得たいと考えた私は広告代理店を退社し、テレビ局の報道部で事務のアルバイトに就いた。社会の激動を伝える同世代の報道局員たちと親しくなるにつれて、私は「取り返しの付かないことをした」と考えるようになる。受験に失敗したことも、大学で学ばなかったことも、消せない人生の瑕疵に思え、そんな私にキャリアなど積むことはできないと絶望したのだ。表向きは若く華やかな人であることを装いながら、心には暗黒が広がっていた。

考えすぎていた私は、ある日倒れた。神経症となり入院生活を余儀なくされる。病院のベッドに横たわった私は、「働くということ」を考え続けた。平和な時代に健康で生まれたことの恩恵に、どうして自分は報えないのか、と。「男女雇用機会均等法」を経て社会には変化が兆していた。女の自分にも生涯を通して向き合える“仕事”があるはずだ。そう心を強くすると、病も癒えていった。



退院し、社会復帰した私は、自分が精魂込めて挑める仕事を探し続けた。根気よく考え続ける中で「一番好きなことを仕事にしたい」と思い当たった。幼いけれど、まっすぐなこの気持ちは揺るがなかった。本が大好きな私は、読む側から書く側になりたいと心に決め、経験もないままに出版社を巡った。27歳の時だった。

素人の私に誰もが「書くことは容易くはない。素人には無理だ」と言ったが、稚拙な私の情熱を指示してくれる人もいた。文藝春秋という出版社のナンバーというスポーツグラフィック誌の編集長は、「スポーツノンフィクションを書きたい」という願いを聞き入れ、小さな連載ページを任せてくれた。

その編集長は私にこう言った。「どんな仕事でも、最初は誰もが素人です。大切なのは、スタートを切る勇気と、どんな困難があっても継続する胆力、そして、経験を経ても新しいものに挑戦する心ですよ」と。

それから23年を過ごした私は、取材の度に、この編集長の言葉を胸に思い起こしている。だからこそ大きな蹉跎の先に巡り会った仕事への愛情は、この先も決して変わらない、と思えるのだ。

# POSITIVE ACTION

## 先輩社員からのメッセージ 01~10



### 先輩社員からのメッセージ 01

オムロン株式会社  
人財総務センタ グローバル人財戦略部 主事  
**福田 志帆**

**30歳なんて、まだまだ。  
「その日」のために準備をしながら、  
気長に待つことも大事です。**

**8年間の辛抱を経て得たのは、会社の根幹を担うやりがいのある仕事。**

— 留学経験もおおりの福田さん、現在の仕事はいかがですか？

そうですね。もう楽しくて、楽しくて。中国、東南アジア、ヨーロッパ、アメリカにある地域統括会社を回って、オムロンの企業文化を共有するための活動をするのが、現在の私の仕事です。現在オムロンは売上げの半分以上を海外で上げている文字通りのグローバル企業であり、海外の事業所も増えています。こうした状況下でオムロンの企業文化や経営理念を世界の関係各社に浸透させる仕事をするということは、会社の根幹の一翼を担うことでもありますから、すごくやりがいがあります。それに海外で仕事をするのは私の夢でもありましたし。

— 希望通りのキャリアを歩んでこられたようですね。

ところがそうでもないのです。入社して8年間も国内の採用業務が続きました。これはおそらく社内で最長不倒の記録です。どうしても海外業務を担当しなかった私は、毎年毎年、異動希望を出し続け、9年目にしようやく願いがかなったのです。ですから今の仕事はいわば辛抱の賜物です。でもあの辛抱の時代を経験し、気長にチャンスを待ったからこそ、今の私があるのだと思います。

**社内外のネットワークに支えられた日々。目標は、生きている限り働き続けること。**

— 辛抱の8年間に、心がけていたことはありますか？

社内、社外を問わずネットワークづくりを心がけました。社内では先輩の女性社員に相談を通してつながり、社外では勉強会に参加して他社の人事担当者を知り合い、情報交換をしていました。ちなみにオムロンでは総合職の女性社員の離職率が高い傾向があり、私が何かと相談させてもらったのは一般職の先輩でしたが、総合職であれ一般職であれ、社内で頼れる先輩を見つけることは、精神的にもとても大事だと感じました。

— 福田さんの目標は何ですか？

45歳までに、会社を辞めても仕事ができる自分になることです。決して会社を辞めたいわけではないのですが、定年の



#### PROFILE

入社後、人事部にて8年間国内の採用業務を担当。その後、企業文化統括センタを経て、2011年より現職。海外の関連会社を回り、企業理念・組織風土を共有するための意識調査、リーダー育成、トレーニング等の業務に携わる。

あとまず、生きている限り働きたいんです。そのために、会社の看板がはずれたあとも仕事をしていけるだけの実力を、これから全力で身につけたいと思っています。

#### 後輩女性へのアドバイス

● 我慢してチャンスを待つことも必要  
「気を長くもって、できるところまで辛抱なさい」ということでしょうか。後輩の女性社員の話を知っていると、どうも「30歳までに、公私ともにメドをつけようとする」傾向があるように思います。でも会社側にとっては30歳の社員なんてまだまだこれからの存在です。たとえ思うスピードで思うところに行けなくても、ある程度は我慢して、チャンスを待つことも必要だと思います。

## 先輩社員からのメッセージ 02

株式会社資生堂  
国内化粧品事業 リレーショナルブランドユニット  
**佐藤 三由樹**

# 自らの強みを説明できることなくして、 人の上に立つことはできない。

### 国境を越えて新しいお客様に 出会えるという感動

— 今の会社を選んだ理由を教えてください。

海外でも名が知られているため、日本文化の発信が積極的にできること、海外業務を拡大しようとしている企業だったことに魅力を感じました。ただ物を販売するだけでなく、それを使う人、作る人、関わる人を海外で生み出すことができることにも可能性を感じたんですね。「一瞬も、一生も、美しく」の企業メッセージにあるように、「いくつになっても年相応の美しさがある」という会社のスタンスにも共感でき、この会社で働いてみたいという思いに至ったわけです。

— やりがいを感じたエピソードを教えてください。

もともと海外事業に携わりたいと思って入社したので、初めて中国にトイレットリー商品を輸出し、それを店頭でお客さまがご覧になっているのを見たときには感激

しました。当時の中国はTwo in Oneシャンプーが当たり前だった時代でして、シャンプーとコンディショナーを分けて使う方は極めて限られていたのです。トレンド好きな方、目新しい商品に敏感な方を選んでいただけることが、何より嬉しかったですね。

— 壁にぶつかった時、意外な方が力になってくれたそうですね。

新商品のブランディングなど、これまで先行投資を伴う事業に多く携わってきたため、会社の戦略と自分の目指す将来像との間にギャップを感じるがありました。ただ、同僚と話をすると、ただの愚痴になってしまうので、私の場合海外に赴任していた父に相談してみたのです。圧倒的に世代が異なる人間からアドバイスされることで、それらを素直に「先輩の言葉」として受け止めることができましたし、違う会社でも同じ様なことが起こるんだと認識することもできました。

### 社外の知識の引き出しを交流で増やす。

— スキルアップのために取り組んでいることはありますか。

以前は中国語を習いに母校の外国語学校に通ったり、会社が自己啓発として紹介している通信教育講座なども受講しましたが、ここ数年は業種を問わず社外の方もふくめた座談会のような会に月に一度参加し、知識の引き出しを増やそうと



### PROFILE

入社後、資生堂ファイントイレットリー(株)東北エリアの営業を担当。3年目に(株)エフティ資生堂開発事業推進部にて新規事業の企画、中国事業の立ち上げプロジェクトを経験。8年目には本社中国事業部へ異動し、商品開発等を担当。11年目にリレーショナルブランドユニットへ異動しマーケティング・プロモーション担当となり、現在に至る。

心掛けています。名刺交換で終わる関係ではなく、仕事とは関係のない所で日本の未来を案じてみたり、将来のビジョンを発表し合うなど、とても有意義な時間を過ごしています。

### 後輩女性へのアドバイス

● **ポリシーがはっきりしていれば、自分なりの職場貢献ができる**  
普段から、自分が何のために仕事をするのかを考え、その理由付けを持っておくべきでしょうね。そのためには自分の強みを見つけ、なぜそれが強みだと思っているかを説明できる必要があります。それをなくして、人の上にたつ、或いはマネジメントするレベルには到達できないのではと思います。何をポリシーとして仕事をするか、それがはっきりしていれば、仕事のモチベーションも保つことができるし、たとえ環境が変わっても、自分なりの職場貢献ができるはずですよ。

## 先輩社員からのメッセージ 03

ソニー株式会社  
プロフェッショナル・ソリューション事業本部  
コンテンツクリエイション・ソリューション事業部  
**山本 祐歌**

# 「なるようになる」の精神で 環境の変化に対応してきました。

### 舞台を変える度に人脈は広がって行く。

— 今の会社を選んだ理由を教えてください。

大学院では「計算機科学」を専攻しコンピュータサイエンスを学びました。そのまま学術畑を続けるのか、あるいは社会に出るのか悩んだ結果、現実的な世界で仕事をしてみたいと思うようになり、就職への道を選択しました。とはいえ、明確なビジョンがなかったので、学校を經由し企業見学として訪れたのが、ソニー株式会社だったのです。そこで感じた雰囲気の良い、幅広い分野へ事業展開していることに可能性を感じ、入社を決意しました。

— 配属初日から部に貢献できたということですが。

初めに配属されたのは衛星IPネットワークレシーバーを開発する部署でした。商品化されたレシーバーがお客様のもとに届き、納入先の問題を解決するフェーズだったので、まずは会議に参加しようという状況で何が問題とされているのかを把握することからスタートしました。分からないなりにもひたすらヒヤリングするといった感じでしょうか。一方で、ネットワーク関連の知識は学生時代に習得していたため、すぐに社内ネットワークを任せられ、配属初日から部に貢献することができました。

— 短い期間でいくつかの部署を経験されたこともありますが、環境が変わることに不安はなかったですか。

もともと一つの技術に限定し、時間をかけて突き詰めるより、「今役に立つ仕事」を行っていきたいタイプなので、環境の変化はさほど気になりませんでした。むしろ、部署が変わるごとに人脈が広がるメリットを感じています。頼れる上司もどんどん増えていく訳ですから。

### 人を観察することで、交渉力は磨かれる。

— 今の仕事のやりがいを教えてください。

現在は、業務用ビデオカメラの「要求仕様策定」に従事しています。形や機能など、新商品の全体の仕様をまとめる業務ですね。企画部がコンセプトメイキングする所から始まり、機能性をあらゆる視点から追求し、各部門の要求を聞き入れ、調整し、設計や販売までの全ての人間が納得して、初めて仕様が決まるのですが、紆余迂曲を経て無事に一つの答えに辿り着いた時には、とてもやりがいを感じます。プロジェクトにはたくさんの人が関わるので、傾聴力、質問力、交渉力が問われる仕事でもあります。



### PROFILE

入社後、大学院での専攻を活かし、ネットワークレシーバー等の開発設計を担当。その後、セキュリティチップファームウェア、ネットワーク機器等の開発設計に携わる。現在は、業務用ビデオカメラ開発設計を担当。

— 会議で議論する際に、心掛けていることはありますか。

感情的になるとうまくいかないで、場の空気をニュートラルに保つよう心掛けています。まじめな方が多い時は、気さくなキャラクターに徹し、にこやかなメンバーにはシリアスな顔で対応します。男性同士熱を帯びれば、女性目線でガス抜きをし、場の雰囲気を柔らかくします。相手の本音を引き出すべく、じっくり傾聴すること、適切な質問をすることがとても大切です。

### 後輩女性へのアドバイス

● **問題の本質を見極めればアプローチ方法が見えてくる**  
スキルアップしたいけれど、どうしようかと悩んでいるのであれば、その方にはきっと目標があるわけですよね。例えば、目の前に壁が立ちだかっただとします。でも果たしてそれは本当に壁なのでしょう。よく見たら、透けているかもしれません。壁だと思った物がもやだつたら、通り抜けることができますよね。問題の本質をよく考え見極めると、違うアプローチを見つけることもできると思います。

## 先輩社員からのメッセージ 04

株式会社日本色材工業研究所  
研究部 第三メイクアップチーム 主任  
**柴田 さおり**

# 会社に必要とされる人間になってこそ みんなで支えあえる組織づくりが できると思います

### 自分のセンスが活かせる ものづくりの面白さを実感

— 今の会社を選んだ理由を教えてください。

ものづくりが好きで、人に喜んでもらえるような商品の開発に携わりたいと考えていました。化粧品は人の心を前向きにする魅力的な商品だと思いますし、私自身もお化粧品することで社会的になれた経験もあって、化粧品の開発を行っている当社に興味を持ったのです。若い女性がたくさん働いていて、活躍しやすい職場であることも志望理由の1つでした。

— 化粧品の開発という仕事の魅力をどこに感じていらっしゃいますか。

理論だけではなく、感性に結びつけて両方のバランスをとっていくことに面白さを感じています。自分で化粧品を試しながら、考えながら作っていくのも楽しいですね。自分のセンスや表現を商品におこみ、お客様から良い反響があったときはうれしいですね。日中だけでなく、朝も顔を洗う前に必ず他社や試作品のマスカラを塗って試すのも日課になっています。



— やりがいのある仕事でも、大変さ、難しさを感じることはありますか。

たとえばマスカラは、人のまつ毛によって塗ったときに差がでますし、化粧下地は「みずみずしい」といった言葉でも何を意味するかは人それぞれで、簡単に評価できるものではありません。ひとりひとりの感覚が左右する商品なので、ものづくりの大変さを感じています。

**困難に直面したときは、  
感情ではなく論理的に解決策を  
探っていく**

— 仕事で困難に直面したとき、  
どのように乗り越えてきましたか。

困難を感じているときはひとつのことに目がむきがちなので、一歩ひいてみるのが大事だと思っています。周りのみんなに意見を求めて、自分の中できみ砕いて解決策を探すことも多いですね。どうやったら解決できるか、感情的にはなく理論的に探っていくよう心がけています。また、行動を起こす前に一度立ち止まり、頭の中で整理して順序立てるようにしています。

— 現在は主任という立場でいらっしゃいますが、ステップアップのために取り組んでいることはありますか。

今後はもっと上のポジションになって、組織の流れをスムーズにできる体制をつくりたいという希望があります。私の部門では、ひとつの開発をひとりの担当者



### PROFILE

入社からこれまで、現部署にて研究開発を行う。現在はマスカラを中心とした商品開発を担当。原料の調合と量産化へ向けての検討・容器とのマッチング・使用性テスト、製品化に関わる書類作成・特許調査・特許出願、市場製品調査等の幅広い業務を行っている。

すべてに行っていることも多く、産休や育休を取ったときのサポート体制がまだ完全ではありません。現在の自分の立場でも、可能な限り柔軟な体制をつくる努力はしています。また、組織論、リーダーシップ論の本や記事に目を通すようにしていますし、マーケティングの通信講座(会社が半額負担)を受けて勉強しています。社会人になって、世の中がつながっていると感じています。女性の働きが認められる世の中になってきていると思うので、その追い風にのり、しかし甘えることなく組織で良い働き方をしていくことが大切だと思います。

### 後輩女性へのアドバイス

● 仕事に“楽しみ”を見つけて  
前向きに取り組む

私も入社2~3年目のときは忙しさのため余裕がない状態でしたが、先を見据えた目標を持つ事で前向きに仕事に取り組めるようになると思います。自分を知ったうえで自分はどういったことに充実感を得られるのかを仕事に見いだせると、仕事に多少不満があっても乗り越えていけるのではないのでしょうか。

## 先輩社員からのメッセージ 05

中部電力株式会社  
広報部 ブランド推進グループ 主任  
**小林 亜希子**

# 仕事を通して成長できる環境に 感謝して、仕事と育児を両立中です。

**改めて感じた仕事に挑戦できる喜び**  
— 1年間の産休を経て職場復帰されましたが、いかがですか？

仕事上の達成感、仕事に挑戦することで初めて得られるものだと気づきました。1年間、育児に専念することができた環境に感謝していますし、会社以外にも視野が広まりました。ですが、休職中は失敗もない代わりに、成長もないような感覚を覚えたのも事実です。復職して数日後、資料作成で上司に赤字を入れてもらったのを見た時は、また、仕事で成長できる環境に戻ったことを実感しました。

— 育児と仕事の両立は大変ではありませんか？

突発的な仕事、期限が迫っている仕事を、時間の制限から完結できないときに、悔しさや申し訳ない気持ちを感じることがありました。チームワークを重視する社風はありますが、上司とペアで仕事をする場合、やり残した仕事が直接上司の残業につながる場合があります。自分がそれまで頑張ってきた仕事ほど、残念な気持ちも大きくなり、「一晩、納めできるまで仕事に打ち込むことができた」と強く感じました。ですが、助けてもらいながらも、無事終わった時はほっとしましたし、この経験は自分にとって非常に価値があるものとなりました。

両立は大変でないとは言えませんが、職場の配慮や女性活躍推進室のサポートに恵まれていると思います。復職時の

上司との面談は不安が多かった時期に安心できました。子供が発熱し実家に預けようとした時は、上司から「子供はつらいとき、(祖母ではなく)母親が一番心強いよ」と休暇を勧めてもらいました。また、女性活躍推進室の取り組みは、従業員の意識改革を図るセミナーから、男性の料理体験のように具体的な行動に結びつくものまで多種多様です。この受講案内を目にするだけでも会社が求めている視点に気づくため、効果はとても大きいと感じます。

※女性の活躍推進室とは  
中部電力において、女性をはじめ個人の能力を十分に発揮できる企業風土を組織的に推進することを目的として2007年7月に設置。

**「今」を大切に力を蓄える。それが復職後の仕事を助けてくれる。**

— 先輩のワーキングマザーに、心に残るアドバイスをもらったことは？

先輩に「復職後は、以前と全く同じように働くには無理があるから、今を大切にしてください」と言われました。人は男女関係なく、育児・介護など、時間に大きな制限がある中で仕事をこなさなければならない環境になることがあると思います。その時、成功体験が多いほど、未経験の仕事にも自信を持って臨むことができるし、失敗が多いほど、何がポイントか勘が働くと思えます。現在、時間短縮で勤務していますが、反省の意味を込めて、「今」を大切にしていきたいと思っています。



### PROFILE

入社後、支店にて経理業務を担当。2年後に希望し広報部へ異動、現所属にて社内広報を担当。入社9年目に1年間の産休・育休を取得の後、現職へ復帰。現在は勤務時間短縮制度を利用。

### 後輩女性へのアドバイス

● 将来は後輩を助けてあげられる存在に

人のいいところに着目して、それを取り入れることが成長につながると思います。以前、社外の方に「ロールモデルを探すのに、自分と全く同じ環境の人を探すと一生見つからない。自分との違い(子育て中か、親のサポートはあるか等)に目を向けるのではなく、人の長所をいいとこどりする発想で」とアドバイスいただき、そのとおりだと思いました。育児を通して人は変わることができるといいますが、仕事は育児同様もしくはそれ以上に学ぶことがあり、会社に感謝しています。